

ミクロ経済学 第7回 解答解説

A1. ○ (☞テキストP292)
A2. ○ (☞VテキストP300,302)
A3. × (☞VテキストP298) 課税前の供給曲線を$P=\sim$に直し右边に財1単位当たりの税20を足す。 $P = S + 20 \rightarrow P = S + 40$
A4. ○ (☞VテキストP303) 課税前の供給曲線を$P=\sim$に直し右边に$(1+\text{従価税率})$をかける。
A5. × (☞VテキストP313) 需要曲線の傾き(絶対値)は、$P = 120 - 1 \cdot D$より1, 供給曲線の傾きは、$P = \frac{1}{2}S$より$\frac{1}{2}$だから、 $\begin{aligned} \text{消費者:生産者} &= 1:\frac{1}{2} \\ &= 1 \times 2:\frac{1}{2} \times 2 \\ &= 2:1 \end{aligned}$ である。なお、各曲線について、変形せずにPの係数の逆数(絶対値)を取って傾き(絶対値)を求めてもよい。 $D = 120 - 1 \cdot P \rightarrow \left \text{傾き} \right = \frac{1}{1} = 1, \quad S = 2P \rightarrow \text{傾き} = \frac{1}{2}$
A6. ○ (☞VテキストP318) 供給曲線の傾きが大きくなると生産者の租税負担が大きくなり、消費者の租税負担は小さくなる。
A7. ○ (☞VテキストP321) 需要曲線が水平になると傾きはゼロとなる。消費者の租税負担がゼロであれば、生産者が全額(100%)租税を負担する。